

体験交流活動型日本語学習のための教材制作

ー関西国際センター短期訪日研修の実践からー

羽太 園、熊野七絵、品川直美、田中哲哉、西野 藍、矢澤理子
(国際交流基金関西国際センター)

1. 教材制作の背景

短期コースの特徴

- ・日本語運用ニーズ
- ・体験・交流ニーズ
- ・学習成果の確認
- ・継続学習への動機付け

2. 体験交流活動型日本語学習

教室で 準備する

必要な日本語表現と
行動のストラテジー
を身につける

外で 体験・交流する

現実場面でタスク
を遂行するために、
日本語を使う

教室で まとめる

見聞きし体験した
ことを、日本語で
まとめる

3. その利点

- ①「何をするために何を学ぶか」が明確になることで、動機付けが高まる
- ②日本語環境における行動力がつく
- ③日本語レベル差のあるグループでもOK
- ④学習をふりかえり、意識化を促す

4. 教材概要

第1部 体験交流活動

- | | |
|---------------|---------|
| ①地域オリエンテーリング | ⑦インタビュー |
| ②ご近所オリエンテーリング | ⑧小学校訪問 |
| ③タウンページを作ろう | ⑨高校訪問 |
| ④交流会 | ⑩工場見学 |
| ⑤ホームステイ | ⑪発表会 |
| ⑥フィールドトリップ | |

各課の構成 (例：地域オリエンテーリング)

流れ (教師用)

活動の概要と進め方、
所要時間など

準備 (学習者用)

会話練習、インタビューや
クイズの準備など

ことば (学習者用)

準備とまとめに必要な
語彙と表現 (イラスト入り)

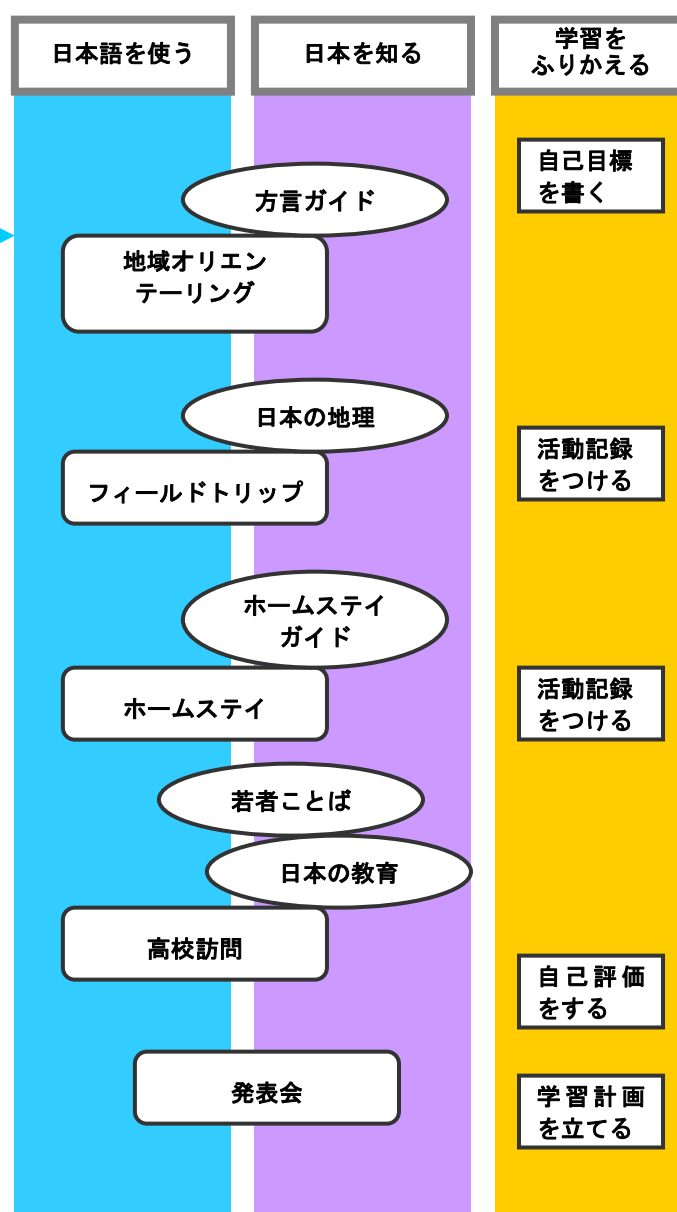
まとめ (学習者用)

ディスカッション、グループ
発表、レポート作成など

活動のコツ (教師用)

活動の留意点、バリエーション、
交流先との連絡など

コースの流れ (例)



第2部 コースデザイン

1. コースを始める

- ・オリエンテーション
- ・アイスブレイク
- ・インタビューと学習相談
- ・自己目標を書く
- ・活動記録をつける

▼自己評価

▲活動記録

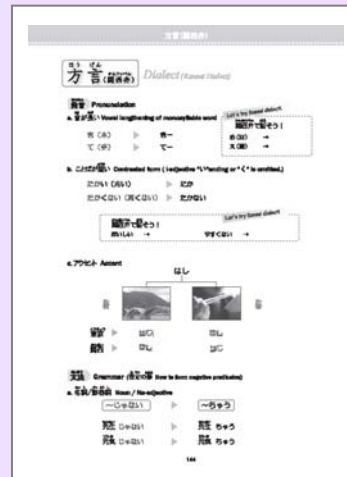
2. コースを終わる

- ・自己評価をする
- ・学習計画を立てる
- ・最後の学習相談
- ・研修アンケート

第3部 Nippon ガイド

例：方言ガイド (関西弁)

- ①日本の地理
- ②日本の歴史
- ③方言 (関西弁)
- ④若者言葉
- ⑤ホームステイ
- ⑥日本の教育
- ⑦アニメ・マンガ
- ⑧伝統芸能
- ⑨茶道
- ⑩華道
- ⑪書道
- ⑫着付け



(紙版)



(PowerPoint 版)